

随筆文 総合・定期テスト対策

解答 P04

本文

【本文】毎朝、私は駅まで同じ道を歩く。角のパン屋、細い路地、信号の順番まで見慣れていて、考えごとをしながらでも着ける道だ。ある朝、工事でいつもの道が通れず、一本となりの道へ回った。私は少し面倒に思い、足早に歩いた。ところが、古い家の塀のすき間から、朝日を受けた小さな青い花が見えた。立ち止まるほどではないと思ったのに、数歩進んでからなぜか戻ってしまった。花は風に揺れ、塀の影の中で小さな灯りのように見えた。その日から私は、ときどき一本となりの道を通るようになった。すると、木の実を並べる子どもや、毎朝植木鉢に水をやる人にも気づいた。近道だと思っていたいつもの道は、目的地へ早く着くための線になっていたのかもしれない。少し遠回りをしたことで、私は道の途中にも立ち止まる理由があると知った。遠回りは時間の損だと決めつけていたが、急がないときにしか見えないものもある。

問1 | ①語句・内容確認

「遠回りは時間の損だと決めつけていた」の「決めつけていた」に最も近い意味はどれですか。
ア よく確かめたうえで正しいと判断していた
イ 他の可能性を考えずにそうだと思い込んでいた
ウ 周囲の人から教えてもらっていた
エ 一度考えたことをすぐに忘れていた

解答：イ

補足：「決めつける」は、他の可能性を十分に考えずに一方的に判断する意味。

問2 | ②体験の把握

筆者がいつもと違う道を通ることになったのはなぜですか。

解答：工事でいつもの道が通れなかったから。

補足：本文冒頭の出来事をそのまま根拠とする。

問3 | ③心情

一本となりの道を歩き始めたときの筆者の気持ちとして最も適切なものはどれですか。
ア 新しい道を歩けることが楽しみだった
イ 遠回りになることを少し面倒に感じていた
ウ 道に迷うことを強く心配していた
エ 青い花を探すことに夢中だった

解答：イ

補足：「私は少し面倒に思い、足早に歩いた」とある。

問4 | ③心情

筆者が青い花の前を通り過ぎたあと、数歩戻ったことから分かる気持ちとして最も適切なものはどれですか。
ア 青い花が気になり、もう一度見たいと思った
イ 道を間違えたことに気づいて慌てた
ウ 花を持ち帰ろうと思った
エ 工事の場所を確かめようと思った

解答：ア

補足：明示的な心情語はないが、通り過ぎたあと戻った行動から花に心を引かれたことが読み取れる。

問5 | ④表現

「花は風に揺れ、塀の影の中で小さな灯りのように見えた」という表現が表していることとして最も適切なものはどれですか。
ア 花が実際に光を出していた
イ 暗めの場所にある青い花が明るく印象的に見えた
ウ 塀のそばに電灯が置かれていた
エ 花が風で消えそうになっていた

解答：イ

補足：「小さな灯り」は比喻であり、影の中の花が明るく目を引いた様子を表す。

問6 | ⑤気づき・理由

筆者が、いつもの道を「目的地へ早く着くための線」になっていたと考えたのはなぜですか。

解答：早く駅に着くことばかり意識して、道の途中にあるものへ目を向けていなかったから。

補足：「目的地へ早く着くことを優先していたこと」と「周囲を見ていなかったこと」を含める。

問7 | ⑥筆者の考え

筆者がこの体験を通して伝えたいこととして最も適切なものはどれですか。
ア 目的地には最も短い道で行くべきだ
イ 毎日違う道を通れば必ず楽しいことが起こる
ウ 少し急ぐのをやめることで、今まで見過ごしていたものに気づくことがある
エ 工事中の道には近づかない方がよい

解答：ウ

補足：本文末の「急がないときにしか見えないものもある」が文章全体の考えを端的に示している。

問8 | ⑦総合記述

筆者は遠回りをした体験を通して、どのようなことに気づきましたか。体験と気づきができるように答えなさい。

解答：工事で遠回りをして花や人々の様子に気づいたことで、急がずに歩くと普段見過ごしているものを発見できると気づいた。

補足：「遠回りで花や人々に気づいた体験」と「急がないことで見えるものがあるという気づき」の両方を含める。表現が異なっても趣旨が同じなら可。